



マネージャの削除

Unified CM Assistant のマネージャを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのマネージャをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、*rmartinez* というユーザ ID を持つマネージャに 2 人のアシスタントがいて、それぞれ *dbell* と *jkent* というユーザ ID を持つ場合、マネージャとしての *rmartinez* を Cisco Unified Communications Manager データベースで削除すれば、*rmartinez* と両方のアシスタントとの関連付けを解除できます。削除した後も、ディレクトリには *rmartinez* がユーザとして残ります。

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから、マネージャと、そのマネージャとアシスタントのアソシエーションをすべて削除できます。[マネージャの削除] オプションにアクセスするには、[一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] を選択します。

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.31-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.31-3\)](#)

クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるアシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] > [クエリー] の順に選択します。[マネージャの削除 (Delete Managers Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: マネージャ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [部署名]

2 番目の [検索対象: マネージャ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのマネージャを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。



[注] マネージャを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに **12, 24** と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから **[AND]** または **[OR]** を選択して、ステップ 2 ～ 3 を繰り返します。

ステップ 5 **[検索]** をクリックします。

検索されたマネージャのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行] をクリックします。

ステップ 8 **[送信]** をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 64 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.65-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.31-4 の「関連項目」を参照してください。

カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のマネージャのアソシエーションを検索できます。

始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を指定したテキスト ファイルを作成します。
2. ユーザ ID は、1 行に 1 つずつ指定します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してマネージャのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。[マネージャの削除 (カスタム) (Delete Managers Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除対象: マネージャ、検索条件] フィールドで、識別子 [ユーザ ID] を選択します。

ステップ 3 2 番目のフィールドである [カスタムファイル] ドロップダウン リストボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検索されたマネージャのリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行] をクリックします。

ステップ 7 [送信] をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、第 64 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.65-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.30-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.65-4\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.64-1\)](#)